

実施要領 様式11(第13条関係)
【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成21年4月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0290100056
法人名	有限会社 サンショウ
事業所名	サングループホーム横内
所在地	青森県青森市横内若草13-2 (電話)017-728-0001
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年12月11日

【情報提供票より】(平成20年11月19日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年12月12日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	11 人	常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算	10.1人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000~48,000 円	その他の経費(月額)	共益費 13,500 円他
敷金	有(84,000~96,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

(4)利用者の概要(平成20年11月19日現在)

利用者人数	3名	男性	名	女性	3名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	80 歳	最高	89 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	森山内科クリニック 青葉心のクリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、田園風景の中にあり、冬でも融雪散歩道を散策できるほか、ホーム内もゆったりとした広い空間となっている。
本部が薬局なので、薬の使用等については、特に専門的なアドバイスが受けることができる。
町内会との連携及び利用者の家族の協力が積極的に行われ、入居者も落ち着いて日々過ごしている。
職員の年間研修計画を作成し、職員育成の具体的目標を決め、サービス向上に努めているほか、積極的に外部研修や勉強会に参加させている。研修受講後は復命書を作成し、回覧したり、週1回の会議内で報告を行い、全職員に周知している。職員の業務に関する助言を、医療や認知症の経験豊かな社長や同窓の看護師がスーパーバイザーとして行っている。
利用者の生活歴や力量を把握し、カラオケやボーリング、自転車、マッサージ、詩吟など、それぞれの楽しみごとを支援しているほか、促す働きかけを行っている。
居室には、茶碗や箸、布団、TVなど、利用者の馴染みの物が持ち込まれているほか、家族の写真等が飾られ、一人ひとりに合った、居心地の良い居室作りを職員と一緒にしている。

【特に改善が求められる点】

グループ会社統一の理念を基に、現在取り組んでいる活動と結びつけながら、地域密着型サービスの役割を反映させた、サングループホーム横内独自の理念を作成することに期待したい。
やむを得ず施設する場合に備えて、家族等へ説明を行い、同意を得る体制を整えることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の外部評価の結果についても全職員で検討し、全職員の共有理解を図りながら、必要に応じた改善に取り組んでいる。虐待マニュアルの作成や運営推進会議を開催、災害時の救急物品の準備も行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価のねらいや活用方法を全職員に周知し、理解しているほか、自己評価を作成する際は、全職員の意見を取り入れている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域包括センター、町会長、民生委員、管理者、ケアマネ、家族、職員で構成された運営推進会議を開催し、自己評価や外部評価結果についての報告のほか、地域防災の連携等について話し合っており、出された意見を基にサービスの質の向上に役立てている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族の訪問時に利用者の暮らしぶりや健康状態、サービス提供体制の変更等について報告している。金銭出納状況については、出納帳と領収書で報告し、確認してもらっている。</p> <p>意見箱を設置するなど、家族等が要望等を出しやすい雰囲気作りを行っている。内部・外部苦情受付窓口を重要事項説明書に明示しているほか、ホーム内にも掲示している。出された要望等は日々のケアサービスに反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>盆踊り、夏祭り、公民館行事、新年会など町内会行事に参加し、交流の機会を多く持ち、地域に根ざした雰囲気づくりを行っており、婦人部や民生委員等と交流を図ることで、地域資源を活用している。見学や相談の受け入れや、大学等のボランティア、実習生等の受け入れ体制も整っており、外部の人を受け入れる際は、利用者のプライバシーに配慮している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>地域との繋がりのなかで、「明るく、仲良く、楽しく」のグループ会社統一の理念を掲げ、その人らしい暮らしの支援を心がけ、全職員の名札に記載・携帯しているほか、ホーム内に掲示し、日々の唱和によって確認・周知をしており、サービス提供場面に反映させている。</p> <p>年間研修計画を作成し、職員育成の具体的目標を決め、サービス向上に努めているほか、積極的に外部研修や勉強会に参加させている。研修受講後は復命書を作成し、回覧したり、週1回の会議内で報告を行い、全職員に周知している。職員の業務に関する助言を、医療や認知症の経験豊かな社長等がスーパーバイザーとして行っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>家族と一緒に体験入居を実施するなど、利用者が安心してサービスを開始できるよう支援しているほか、利用者や家族等と十分に話し合い、双方の意向に沿えるよう調整している。</p> <p>職員と入居者は、食事の準備や部屋作り、掃除、手芸や花づくりなどを共に行うことで、一人ひとりを理解し、共同で生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画作成時は、利用者の意向を可能な限り取り入れているほか、ケア会議を通して職員間で十分に話し合い、必要に応じて家族や医療機関等の意見も取り入れており、身体介護や生活向上を含めた利用者本位の個別具体的なものとなっている。</p> <p>薬剤師による薬等の医療に関する相談や、病院や美容院、買い物などへの外出支援を行い、柔軟な対応を行っている。必要に応じて、利用者や家族、地域からのニーズを検討し、できる範囲で取り組んでいる。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>職員は利用者に対して常に傾聴し、年長者と接する上で常識的な呼びかけや声かけを行っている。また、申し送り時等に対応についての確認や改善について取り組んでいる。介助時等は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮している。職員は個人情報保護法を概ね理解しており、配慮しているほか、個人記録等はスタッフルームに保管している。</p> <p>居室には茶碗や箸、布団、TVなど、利用者の馴染みの物が持ち込まれているほか、家族の写真等が飾られ、一人ひとりに合った、居心地の良い居室作りを職員と一緒にしている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との繋がりのなかで、「明るく、仲良く、楽しく」のグループ会社統一の理念を掲げ、その人らしい暮らしの支援を心がけているが、事業所独自の理念を作成するまでには至っていない。	○	グループ会社統一の理念を基に、現在取り組んでいる活動と結びつけながら、地域密着型サービスの役割を反映させた、シングループホーム横内独自の理念を作成することに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員の名札に記載・携帯しているほか、ホーム内に掲示したり、日々の唱和によって常に確認し、周知しており、サービス提供場面に反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	盆踊り、夏祭り、公民館行事、新年会など町内会行事に参加し、交流の機会を多く持ち、地域に根ざした雰囲気づくりを行っており、婦人部や民生委員等と交流を図ることで、地域資源を活用している。見学や相談の受け入れや、大学等のボランティア、実習生等の受け入れ体制も整っており、外部の人を受け入れる際は、利用者のプライバシーに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	週1回の会議において、評価のねらいや活用方法を全職員に周知し、理解している。また、自己評価は全職員の意見を取り入れながら作成しているほか、昨年の外部評価の結果についても全職員で検討し、全職員の共有理解を図りながら、必要に応じた改善に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター、町会長、民生委員、管理者、ケアマネ、家族、職員で構成された運営推進会議を開催し、自己評価や外部評価結果についての報告のほか、地域防災の連携等について話し合っており、出された意見を基にサービスの質の向上に役立っている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広報誌を配布し、自己評価・外部評価結果について報告している。市からのグループホーム実地指導に来所した折、運営上の指導を受けたり、必要に応じて行政担当者に相談するなど連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部・外部研修に積極的に参加し、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について理解を深める取り組みを行っており、管理者や職員は概ね理解している。現在は制度の利用者はいないが、必要に応じて情報提供等の支援を行う準備が整っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や勉強会において、全職員が高齢者虐待防止法について理解を深める取り組みを行っているほか、管理者はサービス提供場面を共有し、防止に努めている。虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れについてのマニュアルを作成しており、全職員が内容を理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所の理念やサービス提供等に関して説明を行い、利用者や家族が疑問等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。契約改訂時や退居時にも十分な説明を行い家族から同意を得ているほか、退居先等の情報提供などの支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の暮らしぶりや健康状態、サービス提供体制の変更等について報告している。金銭出納状況については、出納帳と領収書で報告し、確認してもらっている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するなど、家族等が要望等を出しやすい雰囲気作りを行っており、細かい要望等は訪問の際にも気軽に出されている。内部・外部苦情受付窓口を重要事項説明書に明示しているほか、ホーム内にも掲示している。出された要望等は日々のケアサービスに反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者、職員は異動等による利用者への影響を理解しており、配慮している。まだ職員の異動を行ったことは無いが、今後行う場合は利用者へ説明を行うほか、十分な引継ぎを行う。また新人職員採用時は、研修や試用期間を設け、十分な引継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、職員育成の具体的な目標を決め、サービス向上に努めているほか、積極的に外部研修や勉強会に参加させている。研修受講後は復命書を作成し、回覧したり、週1回の会議内で報告を行い、全職員に周知している。職員の業務に関する助言を、医療や認知症の経験豊かな社長や同窓の看護師がスーパーバイザーとして行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や東青地区グループホーム協会に参加し、情報交換を行っているほか、市内の近隣ホームと行事の際に交換研修を行うなど、交流や連携を通じて職員の育成に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と一緒に体験入居を実施するなど、利用者が安心してサービスを開始できるよう支援しているほか、利用者や家族等と十分に話し合い、双方の意向に沿えるよう調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者は、食事の準備や部屋作り、掃除、手芸や花づくりなどを共に行うことで、一人ひとりを理解し、共同で生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々のコミュニケーションを通して、利用者の思い等を把握するよう努めている。十分に把握できない場合は、全職員の気づきや、必要に応じて家族や関係者からも情報収集し意向把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時は、利用者の意向を可能な限り取り入れているほか、ケア会議を通して職員間で十分に話し合い、必要に応じて家族や医療機関等の意見も取り入れており、身体介護や生活向上を含めた利用者本位の個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、6ヶ月毎に見直しを行っている。また、身体状況の変化時や、利用者や家族の希望の変化時には随時見直しを行っている。見直しを行う際は、職員、利用者、家族、関係機関の意見を取り入れているほか、常に観察や把握する取り組みをし、現状に即した介護計画を作成することに努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	薬剤師による薬等の医療に関する相談や、病院や美容院、買い物などへの外出支援を行い、柔軟な対応を行っている。必要に応じて、利用者や家族、地域からのニーズを検討し、できる範囲で取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握し、かかりつけ医の受診支援を行っている。体調変化時や心配ごとがある場合は、薬剤師が個々の相談に応じている。通院は家族介助で行っており、家族ができない場合は職員が行っており、受診の結果などは常に共有している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する指針を作成しており、日常的に健康管理や急変時の対応について、利用者や家族、医療機関と話し合いを行い、意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対して常に傾聴し、年長者と接する上で常識的な呼びかけや声がけを行っている。また、申し送り時等に対応についての確認や改善について取り組んでいる。介助時等は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮している。職員は個人情報保護法を概ね理解しており、配慮しているほか、個人記録等はスタッフルームに保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者一人ひとりのペースを尊重し、利用者の訴えを尊重し、その日の状況にあわせた柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者や家族から好みを把握し、献立に取り入れている。利用者の状況に合わせて食事の準備や片付けを一緒に行い、職員は食べこぼしのサポートを行いながら、利用者と一緒に食事を摂っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員は利用者の入浴習慣を把握しており、意向に合わせた入浴を支援している。また、ホームは天然温泉で、いつでも入浴が可能で、入浴の際は介助員が付き添っている。入浴を拒否する方には、別職員が再度声がけを行ったり、足浴に変更するなど工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力量を把握し、カラオケやボーリング、自転車、マッサージ、詩吟など、それぞれの楽しみごとを支援しているほか、促す働きかけを行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、日常的な外出の機会を設けているほか、月1回、観光や町会行事への参加などを行っている。外出の際は移動距離や身体状況に配慮しているほかその日に合った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は外部研修等に参加し、身体拘束の内容や、その弊害について理解を深めており、身体拘束を行わないケアを実践している。やむを得ず身体拘束を行う場合の、その理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制や、家族への説明及び同意を得る体制が整っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室は施錠していない。また、外出傾向を察知できるよう見守りを行っている。利用者の外出傾向を察知した場合は、職員が付き添う等の対応を行っているほか、無断外出に備えて、近隣から協力が得られるよう働きかけを行っている。しかし、やむを得ず施錠する場合に、家族等へ説明を行う体制が整っていない。	○	やむを得ず施錠する場合に備えて、家族等へ説明を行い、同意を得る体制を整えることに期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	通常訓練年2回、夜間想定訓練を年1回実施している。また、町内会の防災システムに加入し、災害時に近隣住民や関係機関から協力が得られる体制が整っている。災害発生時に備え、食料や飲料、毛布等の物品を用意し、町内会へ供与するなど協働している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立となっており、1日の摂取カロリーや水分量を概ね把握している。また、必要に応じて水分摂取量を記録している。献立や栄養摂取量等について法人管理栄養士の助言や指導を得る体制が整っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルが作成されており、必要に応じて見直しを行っている。また、保健所等より情報収集を行い、必要に応じて学習会を開催しているほか、広報誌等で利用者や家族に周知している。職員・入居者共にインフルエンザ予防接種を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広々としており、腰掛式の和室やソファが配置され、家庭的な雰囲気となっている。職員がたてる物音やテレビの音量、室内の明るさは適切で、季節に応じた飾りや利用者の作品を展示している。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗や箸、布団、TVなど、利用者の馴染みの物が持ち込まれているほか、居室には家族の写真等が飾られ、一人ひとりに合った、居心地の良い居室作りを職員と一緒にしている。		

※ は、重点項目。